

令和7年度

三縄小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 各教科等の特質を活かし、子どもの「やりたい」という気持ちを引き出す授業の実践
- 互いに認め合い、話し合い、学び合える授業の実践

校長

藤岡 浩

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

相互参観授業や、研究授業を行い、実践方法や子どもの変容を共有する。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組む児童が多く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付きつつある。 ●文章を正しく読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・読み書きや、計算の基礎的・基本的な知識・技能確実に身に付ける。 ・文章を正しく読み取ったり、身に付けた知識や技能を活用して学習に取り組むことができる。	・タブレットアプリを活用し、既習の四則計算や、漢字を練習する時間をとるようにする。 ・児童の苦手を自分自身で把握し、自分に合った家庭学習を週に1回程度実施する。 ・「あわスタ」を活用し、児童の学習との関連付けをする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の気づきや考えを相手に伝えたり、聞いたりすることができる。 ●自分の思いや考えをまとめて、相手にわかりやすく表現することに課題がある。	・学んだことを適切な文章で表現することができる。 ・互いの意見を比較したり関連付けたりすることができる。 ・めあてを意識しながら学習に取り組み、自分の学びについて振り返ることができる。	・自分の考えを文章にまとめる時には、ペアやグループで話し合う時間を設け、理由や根拠を説明することができるようにする。 ・各教科の特質に応じて、具体物の操作やICT、体験的な活動などに取り組みさせることで、学習したことを振り返ることができるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができる。 ○すすんで読書に取り組むことができる。 ●苦手な課題や難しい課題に対して、粘り強く取り組むことができる児童は少ない。	・自らめあてをもち、よりよい解決方法を自分なりに考えながら課題に粘り強く取り組むことができる。	・地域の良さを活かした活動や、体験活動の充実を図るとともに、児童にまかせ、主体的に判断する機会をつくる。 ・教科横断的な学習を取り入れることで、児童の学びや経験から学習のプランを立てることができるようにする。			